

幼児クラス（3・4・5歳児）

活動人数 18名

活動日 令和6年12月5日  
令和7年1月15日

活動時間 10:00-10:45



## テーマ

## 秋の自然に触れ合う！

### <テーマの設定理由>

秋になり、木々に変化が訪れてきました。公園にも自然変化が起きており、「色が変わってる」「実が落ちてる」と興味津々の子ども達。公園内の落ち葉遊びや探求が始まりました。発見をもとに色々な変化や感触を見つけ、ワクワクを感じていく活動を2種類に分け、記録しました。

### どこで何をする？

#### <活動スケジュール>

- ①浜町公園広場  
落ち葉に触れ、遊びを展開する
- ②清澄公園  
秋の自然物を発見・収穫を楽しむ

### 何が必要？

#### <環境デザイン・俊美物・環境設定>

- カメラ（記録用）
- 温湿度計

## 実践記録

### <活動内容>

### ①落ち葉に触れ、遊びを展開する

【2024年12月5日 温度度 湿度15.5度 湿度50%】



公園には、落ち葉がいっぱい落ちていました。

「いっぱい落ちているよ」  
「先生遊んでもいい？」  
『いいよ。どうぞ』

自分たちで落ち葉を集め出し、上に向かって投げ始めた。

「雨が降っているぞ」  
「台風並みの大きな激しい雨」  
落ち葉を雨に例え遊ぶ姿も見られた。

「お誕生日おめでとう」  
「お祝いだよ」  
雨ではなく、違うものに例え落ち葉投げを楽しんでいる。



「ここ何もないね」  
『ここでみんなで何か作っても楽しそうじゃない?』

保育者が子ども達と一緒に遊べるような遊びを伝えた。

「じゃ、落ち葉のお山作ろう」

「いいね! 作ろう」

年長組を中心に落ち葉で、山を作り始めた。

年長組の話聞き、一緒に集める年中と年少組

「いっぱい集めよう」

「まだまだ大きくしよう」

集めることを楽しみながら集める

「先生できたよ」

「大きい落ち葉のお山」

『立派な山ができたね。こあら組さんのお腹まであるね!』

とても満足そうだった。

出来たものはみんなで最後に壊し、それもとても楽しんでいた。



## 実践記録

<活動内容>

### ②秋の自然物を発見・収穫を楽しむ。

【 2025年1月15日 温度度 湿度7.7度 湿度50% 】

10月



前回10月に1度訪れたが、その時は気候もまだ夏のよ  
うに熱く、どんぐりの数が少なかったうえ、実も若い  
ものばかりでした。

1月



今回は、どんぐりやその他の実がないかみんなで行っ  
てみました。

「先生あったよ」

『前回よりもいっぱい落ちているね』

各々、どんぐりや木の実、珍しい形の葉を見つけ、保  
育者や友だちに見せたり、一緒に探していた。



「いっぱいどんぐりや落ち葉があるよ」  
「こんなに見つけた」

「先生。これ見て」  
「冬なのに葉の色が変わっていないよ」

『ホントだ。なんでその葉は変わっていないんだろうね』  
「もしかすると冬になったことを知らなかった？」  
「違うよ。この葉は色が変わらない葉なんだよ」

「確かにそうかもね」  
「じゃ他に違う葉がないか見つけてみるね」  
違う種類の葉やどんぐりを探し始めました。



「綺麗などんぐりあったよ」  
「頭の帽子が付いているものもあった。」

「これを使って料理とか作るのも楽しそう。」

「そうだね。アクセサリーにするのもいいかもしれない。」

「先生。今度やってみたい」  
『そうだね！木の実や落ち葉を使って製作をしようか』

## 振り返り

<振り返りによって得た保育者の気づき>

毎年来る季節の中で年齢が違えと落ち葉や秋の探索遊びは、子ども達の興味が引くものだと感じた。落ち葉を上投げ、雨をイメージする遊びが好きな子ども。しかし、「おめでとう」と上投げ、紙吹雪をイメージし、遊ぶ場面も見られ、子どもによって見方の違いに気づかされた。落ち葉の山を作る活動では年長組を中心に目的や取り組みがきちんとまとまり、且つ、他の学年に伝え、協力し活動をしていた。その行動を見た、下の学年も一緒になって取り組み、指示を出す等、全体が率先して一緒のものを作ることを楽しんでいった。

幼児クラス、全体で活動することが多く、学年ごとに見方や感じ方がとても違い、又、子ども達で葉の色について疑問に思った事等一緒に考え、答えを出そうとすることもみてられた。大人の話合いのように真剣に話し合うことから気になった事をワクワクしながら子ども達で探究をする様子に気づかされた。

次回は、拾ってきたものを子ども達と一緒に作って遊べるように活動を考える